

令和5年度庄内町振興審議会分科会（文教厚生分科会）【会議録】

日 時：令和6年3月18日（月） 午後6時～午後8時55分

場 所：庄内町役場B棟2F会議室5

出席者：梅木均委員、佐藤道子委員、吉田正子委員、渡部菜穂子委員

（事務局）我妻企画情報課長補佐

欠席者：海藤喜久男委員

1 開 会 18:00

2 協 議

（1）意見書確認と集約

①第2次総合計画後期基本計画ベンチマーク（施策指標）進捗一覧

②第2期まち・ひと・しごと創生事業評価指標進捗一覧

③過疎地域持続的発展計画基本目標進捗一覧

④その他

事務局：資料の内容について説明

【委員】資料1のP1の1-1子育て支援①出生数に対する意見の中で「預かり婚」と記載したが「授かり婚」であり、修正いただきたい。

【委員】庄内町学校適正規模・適正配置審議会ですべて検討を重ね基本方針が策定されたが、将来的には、小学校を1校とするという答申が出されている。来年度から再編整備検討委員会が発足し、その年度ごとに調査し統合時期を判断するとしている。説明会を開催していたが、学校教育の充実や通学路の問題を考えながら進めてほしいなどの意見が出されていた。学校づくりに重点を置き「教育のまち庄内町」という存在感のあるまちづくりが必要であり、第一優先的に考えるべきである。

【委員】庄内町としての存在感はPR不足の部分がある。こんなに良いところが知られていない。庄内地域17万人のうちの2万人の庄内町で、特に田園風景や観光資源があるなど、そういった部分を絡めてのもっと議論する場が必要であると思う。

【委員】IT教育がおこなわれおり、一人一台のタブレットが配布されているが、先生方は苦勞されていると思う。有効に活用して活用して学力面においても頑張してほしい。

【委員】今後の人口が緩やかに減少していき、学校が1つになった場合は500人規模となる。メリット、デメリットの議論あったと思うが、先生の働き方改革をはじめ、教育の在り方を議論するなど、ある程度の大規模校になるとスケールメリットも出てくると思う。

【委員】学校の議論以外にも学童保育やまちづくりセンターがどうなるかなどのお話もある。

【委員】現在は住む場所によって学区が決まっているが、統合により同じ教育が受けられるなどもあるが、一人ひとりの子どもに目が行き届くのかなどのお心配もある。

【委員】幼児教育・保育検討会議の立ち上げにより、少子化問題を含め、保育園や幼稚園、小学校まで統一した議論ができるものと期待したい。

【委員】生まれる子どもが現在90人程度で、10年後に1校とあるが議論のスピードを上げる必要はないか。学校の数のほか先生の働き手不足、スクールバス等の検討もある。例えばネット回線し、冬だけ分校などといった考え方もできるのではないかと思う。医療の問題もあるが、分散により生じている問題もあることから、町の経営の視点では集約するような方向付けも必要ではないか。建物の数だけ管理が必要であり、1つにするメリットなどもある。

【委員】ベットタウン構想という言葉もあったが、学校がよくければ人はこない、親が考えることの一つは子どもである。

- 【委員】介護施設の人手不足について、採用しても希望して入ってくる人が少ない。立川の山水園の小規模多機能施設をやめて、デイサービスに当たる職員を補うなどしている。
- 【委員】酒田市や鶴岡市には職員はいるが、通うのが容易でないとの話。立川地域では、ニチエーさんをお願いしても、行き来に1時間かかるとのこと。
- 【委員】社会福祉協議会では、配食サービスを行っているが、デイサービスを重複するとできない状況もある。個人的な意見として、配食サービスをまちづくりセンター等でできないかと思っている。地域の方の協力でそういう方に弁当をだすなど。
- 【事務局】第四まちづくりセンターの「便利屋わごう」では、外出支援や片付け、買い物代行を行っている。
- 【委員】まちづくりセンターの指定管理者への移行については、営利にならない地域での事業について町は一緒に取り組んでほしいし、地域への支援はお願いしたい。まちづくりセンターが活気づくると、地域も活気づく。
- 【委員】地域の賑わいはすべてにかかわる問題であり、まちづくりセンターの子どもとのかかわりは続けていってほしい。
- 【委員】放課後子ども教室は、第三学区では月に1回開催されているが、学童保育のまちづくりセンター版みたいな感じであるが、月1回ではどうなのだろうとおもう。地域づくりは大切であり、まちづくりセンターの充実のような文言はいいしてほしい。地域課題に対する町の支援を従事させてほしい。
- 【委員】N08のひきこもりに関することについては、意見の趣旨としては、活躍の場を与えることで、働き手として少しでも人で不足の一助となればとの意味である。
- 【委員】ひきこもりの状況については、民生委員で調査をしている。
- 【委員】実際の事情が分からないところであり、そのことを文章日手答申と出すことは難しい。
- 【委員】立川、余目包括支援センターで月1回相談事業を行っているが、相談する人は少ない。親として悩んでいても当事者は来ないケースが多く、どう対応したらいいかなどの相談がある。
- 【事務局】社会福祉協議会では、対面による相談以外にネット環境を活用してタブレットでの相談も行っていると聞いている。
- 【委員】小児科の誘致は大変良かったが、開業医の紹介状の有無については説明がない。町内には斎藤整形外科もなくなり、先生が高齢化している現状もある。
- 【事務局】地域医療の確保という視点での答申としてまとめたい。
- 【委員】N072の意見で、新型コロナウイルス感染症により、新しい生活様式に変わり様々なものが変わった。今までこうだったからではなく、考え直すことが可能なものは新しい視点で考え方が必要である。
- 【委員】公共施設のWi-Fi環境の整備については、昨年度も同様の答申をしている。まちづくりセンターは公衆Wi-Fiがあるが、体育施設や響ホールはない。利用者が自分のギガをつかって調べものや配信をおこなっている状況にある。
- 【事務局】まちづくりセンターは避難所になっていることから先行して導入した経過がある。
- 【委員】清川八郎記念館で、施設に冷房がなく、夏の暑いときに来館した人が大変だったときく。資料としては貴重なものが多く、整っている。清川関所にも多くの展示があり、資料館的なものの整理をしてもいいのではと思う。
- 【事務局】清河八郎記念館へは町より運営費と企画展の一部の助成を行っている。清川関所は町と地元個人、団体が運営委員会を組織し事業の運営を行っている。

(2) その他

- 【委員】芸術文化とスポーツに対する支援について、スポ少ではスポーツ協会より一定の支援があるが、文化関係はない。育成団体としては会場使用料の減免はあるが、先生、講師の謝礼など親の負担増えている。誰かががんばっていないと続かない。芸術文化協会も高齢化で会員が減少している。維持していくのが難しく子どもの育成ができない。なんとか力添えと運営面での助けをいただきたい。県議会で山形交響楽団の演奏があったが、議場で演奏できないか。また、新春懇談会など、子ども

たちの発表の場の提供などあってもいいと思う。

3 その他

(1) 今後のスケジュールについて

事務局：答申書（案）の確認と第2回全体会について説明

(2) 庄内町振興審議会委員について

4 閉会 20:55